



上：細胞性粘菌GfIB(緑)は飲作用に関わり、アクチン(赤：共局在で黄)とともに王冠状突起(矢頭)に局在する。下：GfIBの機能のモデル図。GfIBはABDで直接アクチンに結合し、RasGEFとRhoGAPドメインで低分子量GTPaseを制御して飲作用を含むアクチンが関わる様々な細胞運動現象を制御する。

<https://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/2017/20170807-1.html>